

総合会館 意見交換会要旨録

日 時：令和元年 11 月 26 日（火）19:10～20:00

場 所：総合会館 第 1 会議室

出席議員：林議員、竹松議員、谷口議員

藤本議員、中田議員、嶋田議員

中田議員

それでは、人口対策について資料について話をさせていただいたが、資料に基づいたことだけでなく、これは全国的な課題でもあるが、この課題についてご意見、あるいは、議会としての質問等についてご自由にご発言いただきたい。

参加者

人口対策ということについて聞くが、人口対策特別委員会からの中間報告で「市民一丸」ということになっているが、小矢部市も人口対策は相当の取組をしているが、議会として、どういうことを市民と一丸となって行政と取り組んで行くのか、議会としての中間報告の概要を聞かせていただきたい。

藤本議員

去年 1 年間、特別委員会で活動し、中間報告をさせていただいた。9 月から、新たに、人口対策特別委員会の第 2 期として取り組んでおり、市側も、第七次総合計画の一番の柱が人口減少対策である。もちろん、議会も最優先で取り組んでいる。施策としては、今年、定住支援に力を入れるということで、市役所の 1 階に新しく定住支援課を作った。これについては、議会から再三質問しており、2 階にあったものを 1 階に移動させ、なるべく相談しやすい環境を作るよということ、議会からの提言したことが実現したことのひとつである。その中で新たな施策として、今までは、市外から転入してきた人に対して 100 万円の補助だったが、市内でも転居した場合、新婚の場合に限り、50 万円の補助が出る。今まで長い間住んでいた人が不利でないのかという声もあったので、このように対応した。結婚して 3 年以内の人には 50 万円の補助と子供 1 人に対して 10 万円加算することを新たに実施している。

嶋田議員

若い人がどのような考えでいるかということ、以前から、成人式に赴き、アンケートを取って、小矢部市に何を求めるか、小矢部市をどう思っているかという意見を集約させていただいたところである。

それから、産科がないとなかなか子供を産みにくいのではないかということから、産科を誘致して欲しいと思っており、市からは 1 億円という誘致に対する予算がついているが、それであっても、出生数のことな

どもネックになり、実現には至っていないところである。

参加者

中間報告には「市民一丸」ということを謳っていたが、市民ということになると、行政、議会、一般市民、全てだと思う。3者による人口対策に関する会議のようなものを提唱していただきたいと思うがどうか。

藤本議員

そのことについては、今日説明しているように、小矢部市の人口について皆さんにも良く理解していただきたい。ただ減っているのではなく、伸びている地区もある。国勢調査に基づいた調査では、平成7年から平成22年の間で、埴生地区では190人増加、松沢地区では252人増加、正得地区では23人増加している。大きく減少しているのが、石動地区で2,583人減少、津沢地区で574人、南谷地区で520人減少している。埴生、松沢、正得以外は全て減少している。まず、自分の地区の人口の状態を確認していただき、このことを市民の皆さんと一緒に確認しながら、この問題と一緒に取り組んでいきたいと思っている。

参加者

7月18日に大月市からの行政視察を受けているが、議会としては、何か小矢部市の対策として提言されていると思うが、これも市民が初めて市民が一丸となってやることができるのでその辺、どういうことを、どういうふうに言われたのかお聞かせいただきたい。

中田議員

行政視察の対応は市の担当課でしている。議会は窓口になっているが、行政視察を受け入れた場合、担当課が対応する。

参加者

内容は全く聞かないのか。

中田議員

施策について担当課が説明する。基本的にはタッチしない。

参加者

では、小矢部市が何をやっているのかわからないということか。

中田議員

そうではなく、先ほど藤本議員から説明したような施策を行っていることは、私どもも把握しているが、視察に来た議員に対してどのような形で報告しているかということに関してはタッチしていないということである。

参加者

市民一丸ということは、議会も行政も市民も一丸となってやるということ。小矢部市に行ったら、行政の言うことと、議会の言うことがバラバラということになると大変なことである。

林議員

私の方からも、委員会での議論についてご説明したいと思う。

今年度、小矢部市ではシティプロモーション戦略プランを策定しているところである。先日の委員会の中でも途中経過について話があったところであるが、市の宣伝をしていこうという中で、市民の意見も入れようということをやっている。まずは市役所の職員も一丸ということで、市役所の中でワーキンググループを作って、年4回の検討会を実施している途中である。アンケートも実施しており、市民全体にアンケートを採っている。市民満足度調査も行い、そういう形で市民の声を反映しながら取組を進めている。市出身者等とも連携し、首都圏シティプロモーション立案ワークを開催し、9月に東京でワークショップを開催している。東京の方の小矢部市の認知度であったり、どうすれば小矢部市が魅力的に映るのかということについてワークショップを通じて検討を進めている。そして、9月、10月に市民ワークショップを開催している。学生座談会という形でもやっており、それらを通して市民の声を吸い上げて、そういう意味でも、行政、市民、議会が一丸となって取り組んでいるところである。

参加者

取組もうとしているシティプロモーションプランの、議題を2、3上げて欲しい。どれを中心にやろうとしているのか。

中田議員

それは現在策定中である。

参加者

それはいつ頃できるのか。我々は一切わからない。議会がやっていることもわからない。だから聞きたい。

林議員

年度内にはできる。出来上がってきた頃には特別委員会の方で報告を受ける予定としている。

参加者

来年度に取り組もうということか。

林議員

今年にプランを作って、来年度に取り組む。

中田議員

せっかくの機会なので、議員だけがいろいろな施策に対して提言するよりも、皆さんからの提言、こういうことをすれば、人口増につながるのではないかというような思いがあれば是非参考にさせていただきたいのでお聞かせいただきたい。

参加者

我々市民から提言をしたい。まず、石動地区は道路事情が悪い。インフラ整備をしていただきたい。他市町村を見ていると、特に砺波は人口

が増えているが、とにかく、道路の整備が進んでいる。例えば、イオンの前に4車線の道路が新しくできた。で、すぐそこに家が建った。小矢部市は、特に石動地区は道路事情が悪いので、道路整備をお願いしたい。そうすれば、家も建つと思う。芹川に宅地造成され、家も建ってきている。旧8号線沿いで交通の便が良いということだと思う。

それから、定住人口を増やすためには、企業誘致、フロンティアパークはほぼ埋まっている状況だが、それ以外の工業団地の計画もないと思うが、特に小矢部市はインターチェンジがあり、交通の要衝ということになっているので工業団地を作ることも考えて欲しい。

竹松議員

ご意見のとおり、人口対策は説明したようなものはしているが、それだけでは不十分であり、道路のインフラ整備はもちろん、企業誘致、住宅整備という形で、小矢部市はどうしても民間の力、市としても呼び込めるような、色々なところ、100万円助成などやっているが、住宅開発の業者はこういう施策には興味を持っており、そういったものを含めて総合的なものやっつけていかなければならないということは、当局もそうだし、我々議会としても痛感しているところである。今、人口対策特別委員会という形で、今回は定住促進という内容の施策をやっつけていこうという形でやっている。企業誘致や住宅開発については色々なところで当局と話をしていきたい。

嶋田議員

今のご意見、議員からも再三、議場等で当局への質問として投げかけられているところである。それから、当局の肩を持つわけではないが、一生懸命努力をしてもらっている。また、雇用が発生しないとだめなので、しっかりと取り組んでいる。私たち自身も関係の会社に声をかける、若い方にも知ってもらいたい、来てもらいたいということで、関係人口をしっかりと捉えていきたいということで、私たち自身も動いているところである。

参加者

とにかく、小矢部市から1人人口が減ると、小矢部市は何十万円かの損が出るので、そのあたり、しっかりと、どういう施策をしていくのかしっかりと議論していただき、市議会で活発に市長との対話をしていただきたい。

参加者

小矢部市は子育て支援が本当に充実している。医療費も無料、保育所にもすぐに入れる、病児保育などの取組もやっている所以、そのあたりをもっともっとPRして、都会などに、小矢部市は子育てがしやすく暮らしやすいまちだということ、子育て支援に今以上に力を入れてやっていただきたい。

今、北陸中央病院で病児保育を実施しているが、統合こども園になっても同様の取組を実施されるのかお聞きしたい。

藤本議員

現在整備している大谷と蟹谷の2つの統合こども園、大谷の方は270名の園児を募集しているが、ほとんどいっぱいになっていると聞いている。今ほど言われた、病児・病後児、それから、今のこども園は0歳から預からないと来てもらえないということで、両保育園とも0歳から預けることができる。その中には家庭子育て支援センターも設置する予定となっている。市民の皆さんも、是非、小矢部に来たらいいということをおPRしていただければ、元気をまだまだ取り戻せると思っているので、そういう整備に関しては私どもも意見していきたい。

嶋田議員

女性が仕事を持ちながら、出産や育児をするということで、社協の方で運営しているファミリーサポートセンターの周知徹底をしていかなければならないと思っている。そのように充実しているが、全てが思いどおりになっている訳ではないので、若い世代の方が、出産し、子育てしやすいように取り組んで行きたいと思っている。充実させていくことが人口を増やす第一の要因だろうと私どもも認識しているところである。

参加者

7年前に100万円の助成につられて、埴生に家を建てた。小矢部市も富山県も大好きである。私はまだ会社をやっているが、その会社は人員も増え順調にやっているが、その要因を考えると、まず、時代の流れを読んで、少しだけ先取りをする。そういうことをベースにして考えると、まず、小矢部市が魅力ある市になるためには、ユニークな小矢部市であることを発信していく必要がある。SNSの時代であるので、当然そのような事はやっていっしょるのだが、私は、メルヘンおやべということは、夢のあるまちをつくるということはひとつのメッセージになると思う。アウトレットもこのあたりになかったので、ひとつのメッセージになる。私の会社も同様にメッセージを持っている。今からはロボットの時代ということが50年ぐらい前から言われてきていて、今はそうになっている。それを少しだけ先取りした。それで、ユニークな小矢部市の発信というのは、財政的に負担が少なくてもできること、例えば、投票率が全国で1番というものを発信してはどうか。最初にやるのが大事である。これは金がかからないかもしれないだろう。投票率が全国1というのはすごいことである。それから、平和宣言都市でもいい。フランシスコ教皇が来て、ああいうことを言われるとインパクトがある。あるいは、スウェーデンのグretaさんが、温暖化のことを切々と訴える。それもメッセージ性がある。だから、前の市長がやったいいところは継承して、夢のある小矢部市としてやっていくんだという、メッセージとして

発信していただきたい。

もっと具体的に言えば、例えば、保育所から大学まで、小矢部市に住んでいる人は無償化するというとすごいと感じないか。財政的にどうかはわからないが、メッセージ性のあることを発信する。あまりお金はかからないことである。でも、知恵を働かせなくてはならない。そこに若い人も巻き込んでやるということをやっていただきたい。

さらに具体的に言えば、余裕のある働き方都市宣言など、1日8時間働けば、それで残業しなくてもいいまちというのもメッセージになる。

嶋田議員

メッセージを送る、今はPRの時代なので、発信性を持って色々な人の意見を聞いてやっていくのはいいことだと思う。議会からも、市民からも、まちづくり研究会でもやっているが、お互いに意見を交換して、それから、どういうまちにしていけばいいのかという意見を参考にしながら、また、高校生には、小矢部市にはどのような企業があるのかという説明会も実施している。また、東京にも発信している。東京小矢部会は高齢の方が多いが、東京に住んでいる若い方達に小矢部を見てもらおうという機会も考えているところである。何か言ってすぐにパーンとメルヘンのこれは発信するということにはならないと思うが、予算がつきものということもある。名古屋に行って小矢部の宣伝をするなどして一生懸命小矢部の良さを発信しているところである。それで、見られたとおり、県内初の、がん患者のウィッグの助成もついたので、ひとつずつやっていきたいと思っている。

中田議員

それでは、最後にお一人からご意見をいただいて、人口減少に関する意見交換は締めさせていただきます。

参加者

最後の提案をさせていただきたい。中学1年生と小学2年生の息子がいる。小中学校の統廃合について意見交換会があり、そのときに聞いたお話からお伝えしたい。平成10年では中学校の生徒数は1,276人がいたところ、令和13年、今の0歳の子供がそれに当たるが、これ以上子供が増えなければだが、516人になると聞いている。半分以下になる。中学校が今は4つあるが、個人的には統廃合は避けられないと思っているが、それ以前に、中学校が汚い。本当に整備されていない。びっくりした。まず、男子トイレの小便器が流れない、アンモニア臭がすごい。これを教育委員会に直談判したが、まだ改善されていないようである。それから机、とげが刺さる。市に言っても新しい机が買ってもらえない。安全面で問題がある。椅子についても、女子のタイツに穴が空くと言っている。これも、多感な時期にそういう椅子に座って集中ができるかという問題がある。これだけ問題が多い中で、小矢部市が手当されていないこ

とが本当に残念だった。私は家庭科の片付けの事業で、石動中学校と福岡中学校に行ったが、築年数はさほど変わらないはずだが、福岡中学校はすごく手入れをしっかりとっていて、私がいた30数年前、私は福岡中学校の出身であるが、全く変わらない状況だった。石動中学校は今通っている生徒も汚いと言っている。そんなところに、定住支援と言っているが、それ以前に、今住んでいる中学生が、大人になって小矢部市が住みたいまちになるかどうかという問題がある。100万円配っている場合ではないと思う。小矢部市民の貴重な住民税で100万円配るのだったら、石動中学校を綺麗にして欲しい。石動中学校以外は見ていないが、どの学校も30年以上、東部小学校においては58年間経っている。本当に汚い。福岡中学校と比較して、議員だけが行くのではなく、どれだけ福岡中学校は環境の良いところで勉強ができていいのか実際見て欲しい。いずれどこかに中学校建てることになるかもしれないが、今の田の字の配置は動線が悪い。私はメルヘン建築が大嫌いだ。どれだけメルヘン建築にお金をかけたところで、中学生が勉強しやすい環境か。学校の先生も迷子になると言っている。迷子になる学校でどうやって勉強が効率良くできるか。石動小学校が綺麗で、動線もいい。大変素晴らしい小学校に比べて、中学校の格差がすごく大きかったので、そこについて、議員の皆さんに一度現場を見ていただいて、小矢部市、小矢部市教育委員会の方に、是非お話ししていただきたい。ある先生が声をかけたときに、1クラスで3人しかUターンしたくないと言った。小矢部市に住みたくない。その点について、是非、議員の皆さんから提案していただきたいと思う。

嶋田議員

ここにも何人か議員がいるが、机でとげが刺さるといような話は初めて聞いたという話をしていた。私見であるが、聞いた話を議員が市役所に届けて議論するような話なのかなと思っている。なぜかというと、学校にはそれぞれ、生徒の意見を聞く機関、そして、保護者が担っている機関があるはずである。その中でご意見を言われて、そして、どうしようもない、予算がかかるというよう話になると、議会にも言っていただいて、という話になると思う。先ほど、市民と一丸となつていうのは、ひとつ例を取ると、私たち市民はトイレが汚いと誰も来ないという話になった、それで、市民がグループを組んで、公共のトイレをボランティアで、無報酬で掃除をした。今のお話しは、石動中学校の先生からは統廃合の時には使いづらいので、色々と手を入れなければならないという話は聞いた。そういう現実もあると認識はしているが、その細かい、机や椅子のことは、正直言って聞いていなかった。なので、保護者の皆さんのご意見がどこまでも上がってくるようなシステムづくりを皆さん方で考えていただいて、ラインをつなぐことも考えなければなら

いと思う。以前、保育所を見に来てくれということで行ったときには、暖房にガムテープが貼ってあった。それで、全く暖房が効かないので、風邪を引く子供が多いという保育所を視察しに行った。それはおかしいじゃないかということで、それは、議会で市長へも提言して直していくということはある。お聞きした部分については、聞いていなかったが、保護者の方もPTA活動をつなげて私たちにつなげていただくような活動もしていただけるとありがたいと思っている。

参加者

意見を市民が、教育委員会を含めて、伝えるルートはいくつあってもいい。今おっしゃたルートはノーマルなルートかもしれないが、議員の皆さんが議会報告をして意見交換をするのだから、そういう意見が出て、議会の方から言うというルートがあってもいい。ひとつのルートに限る必要はないと思う。それと、今の意見の趣旨は、学校の環境の整備をしないと子供達が出ていくという趣旨だと思う。その一例としてトイレを言われたのであって、学校の環境をしっかりと整備することが、小中学生の皆さんが、地域、学校に愛着を持って、小矢部市に帰ってきてもらえる、そういう趣旨だと思う。だから、トイレとかだけに固執しなくてもいい。ひとつの代表例だと思う。

藤本議員

私どももそういう話は知らなくて、PTA、教育委員会との意見交換の場もあるので、色々なところでそういう接点があったはずなのに、聞いていなかったのは申し訳なかったと思っている。しかしながら、トイレ掃除については、自分たちが使っているものは、自分たちで綺麗にしなくてはいけない。

参加者

それもわかるが、生徒自身が掃除しなければいけないのは十分承知の上だが、それを、掃除しやすい環境に最低限整えてもらうことも、大事だと思う。アンモニア臭がするトイレを夏休みのボランティア清掃で見ってきたが、汚い。汚いトイレ、学校にいた生徒が、Uターンして我が子を小矢部市に、石動中学校に送りたいと思うかは疑問である。

藤本議員

お聞きした意見を受け止めて対応するように、現地調査をさせていただきたい。

中田議員

時間が少し押したが、防災に関して、小矢部の状況を考えて、ご意見があればお願いしたい。

参加者

今のトイレの話だが、その家を知るにはトイレを借りればわかる。これは昔のおじいちゃん、おばあちゃんによく言ったもんだ。

防災行政無線は我々の安全・安心のために、市、県、国が作っていると思うが、ほとんど防災無線の内容は聞こえない。最初と終わりのチャイムは聞こえるが、内容はほとんど聞こえない。次のJアラートの試験放送はいつかご存じか。ご存じないか。それでは、11月5日の防災行政無線の内容はご存じか。

藤本議員

訓練であることはわかった。

参加者

何の訓練か。

藤本議員

それはわからなかった。

参加者

わからなかったので私は電話で聞いた。「訓練です、訓練です」とメッセージが流れる。19日に役所の総務課に行って聞いた。何の訓練だと聞いたら、国から流されるもので仕方ないというようなことで、地震の訓練のメッセージということだった。あほらしくて、次はこんなことで電話をかけない、ということだが、この防災無線を聞こえるようにして欲しいというと、共振がひどくてちょっと問題があるということだった。何か、住民の安心・安全のために努力して欲しい。今聞き逃したら大変なことでも聞こえない。お願いしたい。

嶋田議員

今の話は総務課から聞いている。有料サービスで電話でお聞ききされた方もいて、そういうところにお金を使ってもらうのは大変だという認識でいる。それをなんとか対応していきたいと思っている。

参加者

思うだけなら簡単である。

嶋田議員

思うところからはじまらないと何にもならない。詳細は今ここでは言えない。

参加者

子撫川ダムの耐震性はどうなっていたか。調べておいて欲しい。今は震度6で崩れるような話を良く聞くが、子撫川ダムはどれだけの震度まで耐えられるような構造になっているのか。

(答えられないようなので) 調べて広報紙等で周知して欲しい。

中田議員

他にご提言等ございましたらお願いします。

参加者

ハザードマップがあるが、先ほど聞いたら、千年に1回の雨とお聞きした。それは時間雨量で何ミリか。

藤本議員

詳細はハザードマップに書いてある。ただ、この前長野で降った雨は1,000ミリでこれ以上のものなので、これを超える可能性も最近は出てきているということだけ把握していただきたい。今回もいち早く避難所を開設したが、そういう勧告が出たら避難所にすぐ避難していただきたい。

嶋田議員

避難所も3箇所開設させてもらったが、伝達の面で課題があったと聞いていて、いかに早く伝えるかということを取り組んで行かなければならないと思っている。それで、昨日聞いたところによると、避難所を開設するのは税務課で、物品を運ぶのは総務課であると、総務課の方が、毎日2人ずつ担当を決めて対応をすると、警報が出れば課長等が出てきて対応を考えるということになっている。手順をしっかりと訓練していち早く情報を伝えていかなければならないと思っている。

参加者

私の会社は矢水町にあるのだが、ハザードマップでは水が漬いたら3メートルぐらいになる範囲に入っていた。それで質問だが、この辺は小矢部川と渋江川に挟まれているが、どこが決壊してこういうふうになるという仮定なのか。

参加者

今の件の関連質問だが、河川の改修工事で、過去に起きた水害において、内側が決壊する、過去の堤防工事において、積み上げた土砂が悪いのかわからないが、小矢部市内において、そういうところがないか、あったら調べて補強などを考えていただきたい。

谷口議員

千年に一度の想定ということで、どういう基準か国交省に確認した。決して小矢部市の議員と行政が相談して作るものでなく、小矢部市の方が国交省の指導を受けながら作っているものである。国の一定の基準を基に作っている。どこがということではなく、これだけの雨が降れば、最大の浸水量がこれくらいだということで作っているものである。洪水ハザードマップに従って、どのような避難、災害対策を行っていくか当局とともに考えるのが議会の仕事だと思っている。

中田議員

ハザードマップには掲載されていないが、想定箇所はある。そうでないとこういう地図は作れない。ただ、それを公表することが住民に対する不安感を与える、逆に言えば知らせるべきなのかもしれないが、とりあえず今はハザードマップには表示されていないが、しっかりと箇所を把握して、想定してマップを作っている。

参加者

不安感と言うが、私たちは実際のことを知りたい。

中田議員

基本的には小矢部川は決壊しないと思っている。千年後はわからないが。

参加者

私は東部地区だが、去年から防災士を招いて、防災会と一緒に、非常訓練をこれまでに3回行ってきた。それで、私たちは、小矢部川が決壊したら、東部小学校の方に向けて移動できるかと喧喧諤諤していた。どうしても3階建ての建物に早く避難したいので、城山の方に向けて行かなければいけないというようなことを福町の人は言っている。この前もレベル3の避難情報が出ていたが、ひとり暮らしの人を民生委員に知らせ、その人を誰と避難させるかという話をしているので、地区によって防災の意識が大小あると思うので、是非、この問題をみんなで考えていきたいと思う。

藤本議員

机上の訓練は非常に大事な事だと思っている。防災士が各地区から要請があれば講義してもらえる。是非、皆さんの町内でも、いざ、こうなった場合はどこにどう避難するかという訓練は大切なことなので、是非こういうことも啓蒙して、うちの町内でもやった。どこにブロック塀がある、トイレがある、水があるという確認は大事で、ある町内ではどこに看護師さんが住んでいるというようなところまで調べてやっているところもある。机上の避難訓練は是非各町内でもやっていただきたい。

嶋田議員

今ほどお話しがあったが、地震よりも洪水という形で、大変危機感を感じているところである。備蓄も洪水にシフトしていかなければいけないとおもっているところである。福祉施設も、大勢の方が移動できるのか、延命器具を装着している人をどうするのか、そういうことを具体的に考えていかななくてはならないと思っているところである。

中田議員

最後のご質問とさせていただきたいと思う。

参加者

たくさんの方から色々な角度から発言があり、大変ためになった。
人口の減少は避けられないので、小矢部市人口が増えることはあり得ないと思う。ゆるやかに減るようにするために知恵を絞るべきだと思う。その中で、みんな楽しく暮らしたいという思いだと思う。その前に、安心・安全が一番大事なことのひとつだと思うが、早めに避難するとしても避難先がどこか。小中学校統廃合審議会でも話が出ているが、統廃合するとなると学校を壊す可能性が高い。そうすると、東部小学校と東部公民館が避難先に指定されているが、東部小学校がなくなっ

た場合、子撫地区の住民は公民館だけで間に合うのかということになる。縦横の整合性を持って、市議会としても、みんなの安心安全を守れるのかという立場でそれぞれの課題に取り組んでいただきたい。

嶋田議員

ごもつともで、そのようにしっかりと取り組んでいきたいと思っている。

参加者

子撫の橋が落ちたらどうするのか。どうやって小学校と公民館に避難できるのか。

谷口議員

子撫川の北側、東側の話だと思うが、洪水ということになると、中山間地なので、田川地区は、洪水ハザードマップにおいても…。

参加者

洪水ばかりではない。地震で橋が落ちたらどこに避難するのか。宮島を迂回して公民館に行くか、福岡から迂回して公民館に行くか。どちらかしかないと言っていた。

谷口議員

おっしゃるとおりで、私も、県の方に、子撫の橋を早急に新しく架け直して欲しいと陳情しているところではあるが、現在のところ、早急に対応できるものではないという回答をいただいている。

参加者

要望書の書類を出していない。県がそう言っていた。出してもらえと。

谷口議員

一生懸命対策を考えていきたい。よろしくお願ひしたい。

中田議員

時間がオーバーして申し訳なかった。貴重なご意見をいただけたのは良かったと思っている。時間構成等を練らせていただき、次回はさらに充実した議会報告会にしたいと思う。そのためには、皆様方の参加が必要なので、次回は、ここに来ていただいた皆さんは、ご近所お誘い合わせの上ご参加いただければありがたいと思う。

本日は長時間にわたりありがとうございました。